

自らの地域は自らで守る。

2016年4月14日 午後9時26分、熊本県熊本地方を震央とする、震源の深さ11km、マグニチュード6.5、震度5強の前震、

2016年4月16日 午前1時25分、同じく熊本県熊本地方を震央とする、震源の深さ12km、マグニチュード7.3、震度6強の本震が発生した。

電気が止まり水が止まり、道路が割れても自らの地域を守ろうと立ち上がった人たちがいた。

彼らは100万馬力のヒーローではないけれど頼りになる地域みんなの強い味方。



愛する地域とそこに住む愛する人たちを守りたい。
その思いが彼らを動かした。

▼消防団としての活動を通して



大津町消防団
第2分団長
おおたくろしゅう
大田黒秀さん

発災当時は避難所の開設と見回り活動が主な活動でした。4月中は支援物資の配布、5月からは避難所の警備を団員と交代で行っていました。地元区長と連携が取れていたのが特に避難所に泊り込んでいるときなどは、「消防団がいて助かった」と言ってくれる人がいてうれしかったです。
余震が続く中、不安が少しでも減ることがなによりでした。



大津町消防団
第3分団長
ひよしまのぶ
日吉雅信さん

地震が起きてから一番変わったのは子どもたちの目です。消防車両で巡回していると子どもたちから「いつもありがとう」と手を振ってもらうようになりました。物資の輸送や避難所の警備が主な役割でしたが、地震後一軒一軒訪問し、声をかけていくと一人暮らしの人などからは「気にかけてくれてありがとう」という言葉をいただき自分たちの活動の意義を再確認しました。できる範囲は限られていますが、防災・減災に使える知識と経験をこれからも生かしたいです。

▼地域の声



中島区
行政区嘱託員
にしもとてつじ
西本哲治さん

災害はいつ起こるか分からない。残念ながら役場だけに頼っているのは人の命は守れません。「自分たちでできることは自分たちで」私も行政区嘱託員として、自主防災組織の一員として活動を行いました。活動の中で炊き出しや車中泊場所の確保、道路に落ちた瓦れきの撤去が必要なときも地元消防団と連携して迅速な対応ができました。一番の防災は顔見知りになることです。消防団は私も入っていましたがそのために良い場所。一緒に頑張りましょう。活躍応援しています。

大津町総合防災訓練

町の総合防災訓練が2月19日、町内全域で行われました。午前9時に震度7を想定した防災無線が放送され、町内の自治会ごとに防災訓練を行いました。その後、訓練の中で避難指示が出され、大津南小学校に災害対策本部を置く消防航空隊のヘリコプターによる捜索訓練、消防団による家屋からの救出訓練などが行われました。住民参加型の訓練ではAEDの操作方法や認知症の人に対するあんしん声かけ訓練などが行われました。



1訓練放送の防災無線が放送2災害対策本部では会議が行われ各地からの避難情報や問題点などが集約されます3町の各区でも防災訓練が開始。避難を促す「中央区の鐘」が鳴り響く4避難指示(緊急)が出されると南部地域の各区は南小学校を目指す。途中には認知症の人に扮した職員へのあんしん声かけ訓練が実施されていました5会場ではあんしん声かけ訓練の寸劇も6地元有志による炊き出し訓練ではカレーが振舞われました7ドローンを使った捜索訓練も8訓練には多くの人が集まりました9南消防署員によるAEDの講習会10はしご車を使った救出訓練では校舎屋上にはしごが伸びます11ヘリコプターに興味津々の子どもたち12陸上自衛隊や水道企業団の展示も13消防団による本番を想定した倒壊家屋からの救出訓練ではチェーンソーが使用される一幕も

消防団に入団しませんか

消防団員は、火災や災害発生時における迅速な避難誘導、人命救助、初期消火活動など、住民の生命財産を守る大きな役割を担う特別職の地方公務員です。

大津町消防団は、本部、第1分団から第8分団の団員630人(平成28年4月1日現在)で構成され、そのうち女性消防団員15人も活動しています。

消防団員に給与はありませんが、その労に報いるため年額の報酬と火災などの職務に従事した際の出勤手当が支給されます。また、多年にわたり在職して退職した場合、その団員の在職年数や階級に応じて退職報償金を支給するようになっています。

「自らの地域は自らで守る」ため、ぜひあなたの力を消防団に貸してください。詳しくは、地元消防団または役場総務課地域安全係までご連絡ください。

●問い合わせ 役場総務課 地域安全係 ☎096(293)3111

大津町
消防団
団員募集